

06 知識・技能を身に付ける

取組事例
27

クッブ※5を体験しよう

伊勢市立小俣小学校 3～5年生



クッブを楽しんでいる様子

実施時期	令和5年10月
実施場所	校庭及び教室
時間	2時間
対象・人数	小学3年生 113人 小学4年生 116人 小学5年生 99人
講師	森のせんせい6人（三重県クッブ協会）、 伊勢農林水産事務所職員2人
備考	市事業「豊かな心を育む体験交流活動推進事業」ふれる・つくる・かんじる自然体験プログラム

めざす姿	06知識・技能を身に付ける（01遊び・楽しむ、02親しむ、03興味・関心を持つ）
ねらい	木を使ったゲームを楽しみ、森林や木の大切さを知る
内容	・三重県や地域の森林の様子について学ぶ ・クッブのゲームを楽しみ、木の重みや手ざわり、香りを感じて親しむ ※5クッブとは、スウェーデン生まれのレクスポーツで、木のバトン（カストピンナ）を投げて小さな角材（クッブ）を倒す当てゲーム（一般社団法人日本クッブ協会ホームページより抜粋）
学習指導要領との関連	森林と人々の暮らし（小学5年生社会科） 面白さ・不思議さ（小学1～2年生生活）、楽しむ（小学1～4年生道徳）、自然環境と地場産業（小学4年生社会科）、森林資源のはたらき・森林資源と木材生産（小学5年生社会科）



三重県や地域の森林の様子について学んでいる様子



尾鷲ヒノキのクッブのピンで木の肌触りや香りを確かめている様子

子どもの反応	・尾鷲ヒノキの手触りや香りを感じながら、楽しくクッブ体験を行っていました。 ・思ったより木が重くて投げるのに苦労していましたが、繰り返すうちに工夫して投げるようになり、積極的に参加できた児童が多かったです。 ・児童からは、「三重県の木が使われていると知り、身近に感じました。」「木を使って遊んだことがなかったので楽しかったです。」「木がいい匂いでした。」「森林を守っていいかないといけないと思いました。」などの感想が聞けました。
学校のコメント	・尾鷲ヒノキを使うことで遊びの体験だけでなく、三重県の森林や林業について親しみを持つことができてよかったです。 ・木の棒を投げるという体験をしたことがない児童がほとんどでしたがゲームを楽しんで活動できていました。 ・チームで声を掛け合いながらゲームを楽しんでいました。 ・木の香りを嗅いで楽しんでいる児童が多かったです。